# 五年後

原民喜

竜ノ彫刻モ
高イ石段カラ割レテ
墜チ
石段ワキノ　チョロチョロ水ヲ
ニンゲンハ来テハノム
炎天ノ溝ヤ樹ノ根ニ
黒クナッタママシンデイル
死骸ニトリマカレ
シンデユク　ハヤサ
鳥居ノ下デ　火ノツイタヨウニ
ナキワメク真紅ナ女

これは五年前のノートに書きなぐっておいたものである。

五年前……。私はあの惨劇の翌日、東照宮の境内にたどりつき、そこで一昼夜をおくった。

石段わきの木陰に、沸いて流れる水があって、私はときどき咽喉を潤したものだ。あの水のところには、絶えず誰かが来て、かがんでいたようだ。水を飲むためばかりでなく何となく、私の足はあの清水のところに向かうのだった。今でも……。満目惨たる記憶のなかで、あのささやかな水は何かを囁いていてくれるよ

うだ。

東照宮の鳥居の下で、反転していた火傷の娘、

兵隊サン　助ケテ

あの声が真紅だったのか、あの口が真紅だったのか

……くらくらと頭上に空間がくずれ墜ちるようだ。

底本：「日本の原爆文学1」ほるぷ出版
　　　１９８３（昭和58）年８月１日初版第一刷発行
入力：ジェラスガイ
校正：大野晋
２００２年７月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。